

◆ 北臨技創立60周年記念式典 平成22年10月16日(土)開催 ◆

事務局長 橋内 健一

「社団法人北海道臨床衛生検査技師会」創立60周年、人の一生からみれば還暦を迎えたこととなります。ごくごく一般的には定年を迎えて第二の人生をこれからといった年齢ではないでしょうか。テレビでは東村山音頭で一躍人気者となった志村けんが現在60歳、天才!志村どうぶつ園で司会を務めバラエティー番組で活躍中です。北海道出身では北酒場でレコード大賞を受賞した細川たかしも60歳、歌のみならず欽ちゃんのどこまでやるので大ブレイク、「紅白歌合戦」の常連で最近は少し暗い話がありましたが現役の歌手で活躍中です。2009年の簡易生命表では、日本人の平均寿命は男性が79.59歳、女性が86.44歳。超高齢社会の今、定年からのこれから、期待を持って何かに挑戦する、まだまだ若い節目の年ではないかと思えます。(若輩者の私が言うのも何ですが…)

1950年に道南地区病理細菌技術者協会を結成、1977年に北海道臨床衛生検査技師会と改称、1983年には社団法人を認可され現在に至っています。2000年には高田鉄也第8代北臨技会長のもと、創立50周年記念式典・祝賀会が盛会に行われました。それから10年後の今年、60周年という節目を迎えることとなります。

第85回北海道医学検査学会(日臨技北海道地区医学検査学会)を創立60周年記念学会として10月16日(土)・17日(日)札幌コンベンションセンターにおいて開催し、学会第一日目の16日(土)午後4時より創立60周年を記念する式典を行います。

式典では、北海道知事、北海道医師会会長、日臨技の高田鉄也会長、日衛協の伊達忠一会長からお祝の言葉をいただく予定です。技師会活動に尽力された会員に対して知事感謝状の贈呈や創立60周年記念表彰の授与式を行います。記念表彰では50年会員表彰、歴代会長表彰、北臨技特別功労表彰、地区会功労表彰を行います。また、平成21年度の学術表彰における北臨技技師会賞と学会奨励賞の授与をこの式典で行います。式典後には、60周年特別記念講演「ホスピタル・クラウンから学んでほしいこと」と題して、日本ホスピタル・クラウン協会理事長の大棟耕介先生よりご講演をいただきます。

北臨技の創立60周年を会員、関係者の皆さまとともに喜び、今後一層の活躍と挑戦に期待を込めてお祝いをしたいと思えます。是非、札幌コンベンションセンター特別会議場に足を運んでいただきたくお願い致します。

◆ HPV 街頭署名活動報告 ◆

組織対策部長 石田憲英

子宮頸がん(HPV)予防ワクチン接種全額公費助成署名活動におきましては会員の皆様のご協力をいただき感謝申し上げます。全国目標100万名に少しでも近づけるため、8月28日13時よりJR札幌駅南口駅前広場にて街頭署名活動を実施いたしました。暑さの中の署名活動でしたが、急ぎ足で行き交う方々も足を止め快く署名していただき約600名分の署名が集まりました。この活動が無駄にすることなく、ぜひ全額公費助成が実現し、署名趣旨にもありますように、国民の健康の保持増進・医療費削減へ繋がっていくことを期待します。

この街頭署名を含め北臨技全体で27,920名の署名をいただきました。ご協力ありがとうございました。



● 会費に関する「重要なお知らせ」 ●

日臨技より既にお知らせがありました(会報JAMT7月号参照)ように平成23年度より日臨技会費(10,000円)の納入方法が原則として口座振替となります。(特別な事情で口座開設が困難な方はコンビニ振り込みも平成24年度までは対応可)

北臨技会費(5,000円)につきましても日臨技の会費と同時に引き落としすることといたします。日臨技と北臨技の会費を合算した15,000円が指定した口座から引き落とされることとなります。

また、日臨技の正会員全員に日臨技の負担にて「臨床検査技師賠償責任保険」に加入する事となります。既にお手元に届いていると思いますが、日臨技からの「臨床検査技師賠償責任保険全員加入についての通知」にて会費の口座引き落としに同意をお願いすると同時に保険自動加入の手続きをお願いしております。これら手続きの「登録用紙」提出期限は平成22年10月15日です。全員が提出することとなっておりますので、まだ提出されていない方は早急に書類をご確認願います。

- ※ 別紙「年会費口座振替等について」「Q&A」もご覧ください
- ※ この件に関しまして、ご質問のある方は下記までご連絡ください

北海道臨床衛生検査技師会事務所

TEL 011-786-7071 mail : hamt@hokuringi.or.jp

多剤耐性アシネトバクター・パウマニについて

東京の医療施設において、多剤耐性アシネトバクター・パウマニの院内感染事例が報告されました。これを受けて厚生労働省より院内感染防止体制の確立と徹底を求める周知依頼が皆様の所にもあったと思えます。アシネトバクター属菌は緑膿菌等と同様に湿潤環境を好み、臨床材料としては尿や喀痰、手術創の濃や滲出液等から分離されることが多いといわれています。対策としては緑膿菌と同様、日常的な医療環境の衛生管理の実施と標準予防策の励行とともに、本菌が検出された患者における接触感染予防策の徹底、さらには病院内の湿潤箇所や、特に人工呼吸器と消毒などに留意する必要があるといわれています。

■ 訃報

森 彰裕氏(北海道釧路保健所)
9月19日 逝去されました
謹んでご冥福をお祈りいたします

<会員名簿> 調査時の申出が「修正されていない/間違っている」場合は10/15までにお知らせください

<求人情報>

- 1) 正職員 新ひだか町 病院(199床) 検査全般 増員2名
- 2) パート 札幌市北区 大学実験補助 8:30-15:30 55才位迄
詳細は北臨技事務所までお問合せください